

セレナを連れ、この悲しい場所を去り、新しい土地で新しい生活を始めた。しかし、セレナは常に自分が何か重要な思い出を失った感じがしていた。彼女は探し続けた、ずっとずっと。

あっという間に十年が経った。美しい女性に成長したセレナは両親からピンクのノートのことを聞き、それを読んだ。そして、かつての故郷を訪問することに決めた。

今、この懐かしい町で、懐かしい顔を見て、記憶が次々に蘇^{よみがえ}ってきた。セレナは全てを思い出した。あの平凡^{へいぼん}でない記憶。気が付く

